

# 住商混在地域における児童の地域認識に関する研究

森 紗耶<sup>1</sup>・横内 憲久<sup>2</sup>・岡田 智秀<sup>3</sup>・関根 博史<sup>4</sup>

<sup>1</sup>学生会員 日本大学理工学部 まちづくり工学科(〒101-8308東京都千代田区神田駿河台1-8-14)  
E-mail:csay13076@g.nihon-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 日本大学特任教授 まちづくり工学科 (〒101-8308東京都千代田区神田駿河台1-8-14)  
E-mail:yokouchi.norihisa@nihon-u.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 日本大学教授 まちづくり工学科 (〒101-8308東京都千代田区神田駿河台1-8-14)  
E-mail:okada.tomohide@nihon-u.ac.jp

<sup>4</sup>非会員 日本大学理工学部 まちづくり工学科 (〒101-8308東京都千代田区神田駿河台1-8-14)  
E-mail:cshr13047@g.nihon-u.ac.jp

わが国の小学校などの義務教育機関において、景観まちづくり教育が行われるようになってきているが山や河川といった明確な地域資源に乏しい一般的な市街地では地域資源が見落とされがちなることもあり、そうした成果の蓄積が課題である。そこで本研究では、住商混在地域で暮らしを営む児童を対象に、児童の目線で捉えた地元地域の魅力を明らかにするためワークショップを実施し、その成果として、大田区大森北地区における児童の地域認識の実態を捉え、児童らが「お気に入りの場所」・「よく遊ぶ場所」として評価する現地の空間や店舗等の特徴を明らかにした。

**Key Words** : Compulsory Education, Residential Commercial Mixed Use Area, Landscape Evaluation, Work Shop

## 1. 研究目的

わが国の小学校をはじめとする義務教育機関において、「総合」の時間などを活用して、景観まちづくり教育が取り組まれている。これについて国土交通省も具体的な教育プログラムを示すなどして推進している<sup>\*</sup>。しかし、山や河川といった明確な地域資源に乏しい一般的な市街地では、児童にとって地域資源の発見が困難なこともあり、そうした成果の蓄積が課題となっている。

そこで本研究では、一般的な市街地である東京都大田区大森北地区と、この地区の中心に位置する大田区立入新井第一小学校の第6学年を対象とし、一般的な市街地に対する児童の地域認識を明らかにすることを目的とする。

本校はJR大森駅に近接した小学校であり、周辺は商店が広がる中に住宅地が点在する住商混在地域である(図1)。この地区は、大型店舗が複数進出する中であっても、地区内の中心的な商店街「ミルバ」は大型店舗の負の影響を受けず、全店舗が営業を展開しているという現状にある。

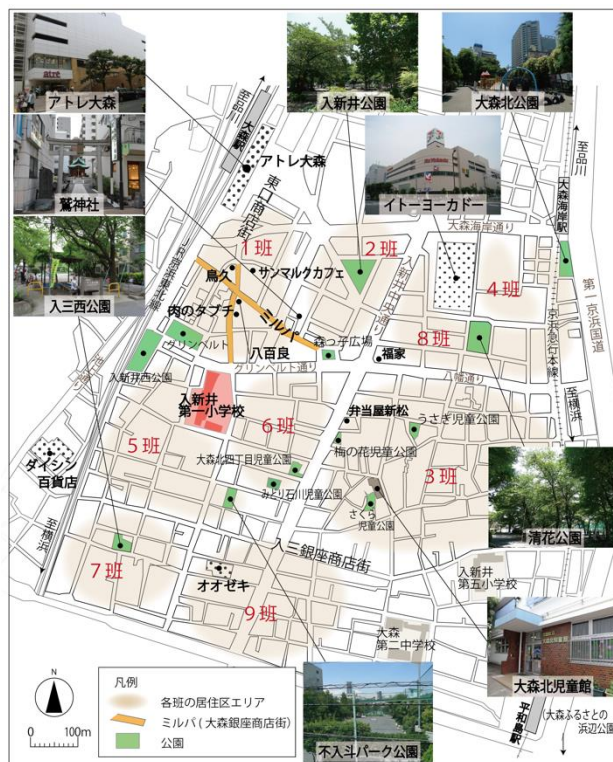


図1 WSにおいて構成した各班の分布と対象地区の現状

## 2. 研究方法

本研究では、上述した“商業のまち”で暮らしを営む児童を対象に、地元地域に対する愛着やお気に入り場所といった児童の目線で捉えた地域の魅力やよく遊ぶ場所について明らかにするためにワークショップ(以下、WS)を実施した。このWS形式を採用した理由として、1対1のアンケート形式では特に見慣れているまちの魅力には気がつきにくいことに加え、話し合いによる魅力要素の共有が重要であるとの考えから、児童間の意見交換による気づきの誘発を図るためである。

当WSは、第6学年全3クラス95人を対象に、図1のような居住地区ごとに9班を構成して、表1に示す全3回のプログラムを大学生がファシリテーターとなり展開した。当WSを居住地区単位によるグループ構成としたのは、児童にとって身近な生活圏を対象として活発な意見交換を期待するためである。

WSプログラムとして第1回WSでは地域の魅力の全体像を掴むため、大判地図を用いて各班の学生がファシリテーター役となり大森地区の魅力抽出を行い、第2回WSではその成果である大森地区の魅力を実際に自身の目で確認し、児童間の共有を図るためにまち歩きを行った。第3回WSではWS成果を地域へ還元するため、まち歩きマップの作成を行った。

そこで本稿では第1回目WSの成果である、児童らの「お気に入りの○○」「よく遊ぶ場所」として評価する現地の空間や店舗等の特徴について考察する。

表1 ワークショップの概要

第1回WS	日時	2015年(平成27年)6月8日(月)8:45~10:20(1~2時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校 第6学年教室および体育館
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生9名、同・教員1名
第2回WS	日時	2015年(平成27年)6月16日(火)10:40~12:15(3~4時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校およびその周辺地域
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生9名、同・教員1名
第3回WS	日時	2015年(平成27年)6月30日(火)10:40~12:15(3~4時間目)
	場所	大田区立入新井第一小学校 第6学年教室
	参加者	第6学年95名、同・担任3名、日大理工学生3名、同・教員1名
プログラム		I. 各班に分かれて自己紹介・自分の地域の特徴紹介 II. みんなに知ってもらいたい、入一小自慢の大森の魅力抽出 ①お気に入りの○○、②よく遊ぶ場所、③嫌いなところ III. 発表(大森地区のBest5の魅力を発表)
プログラム		I. 第一回WSのおさらい II. まち歩きによる写真撮影 III. 大森キャッチフレーズの提案
プログラム		小学生が撮影したまちの魅力写真のトレース作業(まち歩きマップ作成のため)
第1回WS 魅力抽出作業		
第2回WS まち歩き		
第3回WS トレース作業		

## 3. 結果および考察

### (1) お気に入りの場所における児童の地域認識

「お気に入りの○○」と題して、班ごとに話し合った結果のうち、時間の制約上このテーマについて議論できなかった1つの班を除く全8班において、意見の合計数が多かった第1位から第5位までの全10項目を示したものが表2である。これより、第1

位は、全8班が共通して挙げた地区の中心的な商店街「ミルパ(大森銀座商店街)」であった。理由は、全8班中6班が「西の市」を挙げている。これは毎年暮れに実施される商売繁盛を願う祭事であり、ミルパの通りにある鷲神社を拠点に、境内では熊手販売や獅子舞等が行われ、商店街では夜店が連なるなど、当地区が最も賑わう一大祭事である。

第2位は「イトーヨーカドー」という大型店舗であった。理由は「品揃えの良さ」が最も多く挙げられ、これは第5位の「アトレ大森(駅ビル)」「オオゼキ(大型スーパー)」「ダイシン百貨店」などの大型店舗にも共通する。これより児童は、自らの買い物行動に対する利便性を地元のお気に入りとして評価する傾向が捉えられた。そこで、こうした大型店舗と児童らの居住地との距離関係をみると、すべての大型店舗において一般的な徒歩圏である500mより遠方に居住する児童にも評価されていることがわかる。一方、児童らが評価した商業店舗は全23件ののぼったが、この中で個人商店がお気に入りとして挙げられた数は、表3に示すように、僅か5件足らずであった。その評価理由は味の良さに加え、飴やおまけをくれるといった店主のサービスを挙げている。これらの個人商店と児童らの居住地との関係をみると大部分が300m未満であり、上述した大型店舗よりかなり近接しているのが特徴である。

次に「お気に入りの○○」(表2)で挙げられている「遊び場」について着目すると、上位の品揃えの良さが評価されている大型店舗より位置づけが低く、第5位において「大森北児童館」と「大森ふるさとの浜辺公園」が挙げられている。前者は屋内であり遊びの多様性が評価されていることや学区域境であり他校との交流を深められることが評価されている。後者では学区域外であるにも関わらず近隣の公園にはない大きな遊具と大森の特産である海苔の製造を体験できることが評価されている。このことから、上位10項目の中で遊び場は、2ヶ所しか挙げられておらず、児童たちは身近な遊び場よりも“商業のまち”ゆえに、効率良く買い物ができる大型店舗や、西の市における商店街の賑わいをお気に入りとしている実態が明らかとなった。

以上より、入新井第一小学校第6学年の児童が認識する「大森のお気に入り」は、公園等の典型的な遊び場ではなく、「大型店舗の品揃え」や「西の市(祭事)」であった。その要因として、児童らは、自らの買い物体験を通じた“品揃えの良さ”という大型店舗の利便性や多数の夜店が出揃う「西の市」の商店街の賑わいをお気に入りとして見出している一方、個人商店と児童の関わりが希薄である実態が促えられた。しかし、大森地区を特徴付けているのは「西の市」をはじめとする様々な年間行事であり、この年間行事を支えているのは個人商店である。そうした中で、少数ながらも居住地区から300m圏内において個人商店の魅力について気づいている班も見られた。このことを踏まえると、本校で現在実施されている地域学習が地区中心部の「ミルパ」にとどまっ



表 2 「お気に入りの〇〇」の上位 10 項目

順位	場所の名称	班の合計数	班(距離)	お気に入りの理由(複数回答)	班の合計数
1位		8班	1 (60m)	西の市が楽しい(鷲神社を含む)	6班
			3 (520m)	CMの撮影場所として利用される	3班
			4 (470m)	お店がたくさんある	1班
			5 (370m)	森っ子フェスティバルのプラスバンド実施	1班
			6 (240m)		
			7 (590m)		
			8 (470m)		
			9 (610m)		
			2位		6班
4 (70m)	行きやすい	1班			
5 (690m)	親と一緒に遊べる	1班			
7 (880m)	買い物をする	1班			
8 (140m)	涼しい	1班			
9 (760m)					
3位		4班	4 (510m)	食べ物が美味しい	2班
			5 (430m)	落ち着く	1班
			8 (470m)	外から中が見える	1班
			9 (770m)		
4班		6 (330m)	お菓子が安い	3班	
		7 (500m)	品揃えが良い	1班	
		8 (650m)	お菓子が美味しい	1班	
		9 (630m)			
5位		3班	6 (560m)	クリスピークリームドーナツが美味しい	2班
			8 (560m)	品揃えが良い	1班
			9 (900m)	楽しい	1班
		3班	1 (290m)	品揃えが良い	2班
			7 (890m)	お菓子が売っている	1班
			9 (900m)		
		3班	4 (630m)	お店がたくさんあって便利	2班
			6 (560m)	パン屋がある	1班
			9 (900m)		
	3班	4 (370m)	他の学校の人も遊べる	3班	
		6 (230m)	広い	1班	
		9 (340m)	ボール遊びや漫画等、色々楽しめる	1班	
	3班	5 (1738m)	ローラー滑り台がある	2班	
		7 (1692m)	海苔が有名	2班	
		9 (1384m)	静か	1班	
	3班	1 (500m)	品揃えが良い	2班	
		8 (930m)	足湯がある	1班	
		9 (500m)	広い	1班	

【注】( )内の距離は各班の居住エリアの中心から各指摘場所までの直線距離を意味する

いるが、今後は学区域全体の個人商店に着目し、各居住地から300m圏内の身近な個人商店を学習対象とし、個人商店が果たす地域への役割や買い物の楽しさ等の理解を促す取り組みが重要となろう。

(2)よく遊ぶ場所における児童の地域認識

前項では「遊び場」の位置付けが低いことを捉えたが、しかしそうした中でも住商混在地域という一般市街地の中で児童の成長過程において重要な「遊び」をどのような空間で行っているかを本項では考察する。

図2は、「よく遊ぶ場所」について議論を行った全7班の共通意見として挙げられた第1位から第5位までの全7カ所とその評価理由およびそこで挙げられた公園の空間規模を5mmメッシュを用いて算出した結果を示したものである。これより、全7カ所のうち、公園が5カ所挙げられていることから、児童の主たる遊び場は公園といえよう。その第1位は「入新井公園」であり、多くは鬼ごっこやボール遊びができることを理由に挙げている。この公園の総面積2,575㎡に対してオープンスペースが8割を占めており、これは全5公園の中で最大であった。当公園の配置構成として、ボール遊びの空間と遊具のスペースが明確に分離されており、進入できない植栽帯は公園の外周部に位置し、公園中央は下草のない高木であるため、公園全体を使って鬼ごっこが楽しめる。同様に第1位の「大森北児童館」は、屋内施設であるため、天候に左右されずにボール遊びができ、漫画も読めるなど多様な遊びが行えることが評価されている。第3位の「入三西公園」は鬼ごっこや遊具が挙げられている。これは、オープンスペースが全体の6割を占めるにも関わらず、滑り台を含んだ複合遊具が公園の中心部に位置するため、オープンスペースが分断され、ボール遊びよりも、遊具そのものや、それらを利用した鬼ごっこが好まれたと考える。

第5位の「不入斗パーク公園」「清花公園」は、ともにボール遊びが、「大森北公園」では遊具による遊びが挙げられた。前者の「不入斗パーク公園」はオープンスペースが全体のおよそ7割を占め、主にボール遊びが中心となっているが、実はこれが禁止事項に挙げられている現状がある。また、後者の「清花公園」はオープンスペースが全体の5割しかない中でボール遊びが挙げられているが、これは240㎡ほどの金網フェンスで囲まれたボール遊び専用の空間が確保されているためである。また、「大森北公園」は特大サイズのタイヤを用いた遊具のほか空中回廊や滑り台などが公園全体に広がっているため遊具への関心が高まっていると考えられる。

以上より、入新井第一小学校第6学年児童にとつての「よく遊ぶ場所」は、屋外では公園のみであり、屋内では児童館が高く評価されていたが、一般的にかつて見られたような児童自らが発掘する路

表 3 「お気に入りの〇〇」として挙げられた個人商店全5店舗

順位	名称	班の合計数	班(距離)	お気に入りの理由(複数回答)	班の合計数
1位	肉のタブチ	2班	1 (70m)	おまけしてくれる	2班
			6 (250m)	鮎をくれる	1班
	八百良	2班	1 (90m)	鮎をくれる	1班
			6 (220m)	親とよく来る	1班
	鳥久	2班	6 (340m)	唐揚げが美味しい	1班
			9 (680m)	お弁当が美味しい	1班
4位	弁当屋新松	1班	8 (340m)	行列ができるほど美味しい	1班
			4 (260m)	パンが美味しい	1班

【注】( )内の距離は各班の居住エリアの中心から各指摘場所までの直線距離を意味する

地や空き地といった遊び場は皆無であった。これは住商混在地域の性格上、激しい交通の往来や建物が密集して立地している現状が大きく影響していると考えられる。このことから、当地域では子供の遊び場を計画的に整備していく重要性が示唆される。この点につき、「入新井公園」に見られたように“鬼ごっこ”と“ボール遊び”が同時に満たされる空間構成が最も好まれることを捉えた。これに加え、“遊具”を公園の外周部に配置し、中央に多様な利用を可能とするオープンスペースを配置する必要性と、このオープンスペースの規模が公園全体の6割以上であると“ボール遊び”が誘発されることも捉えられた。また、同じ条件でも「入三西公園」のように“遊具”が公園の中心部に配置されると“ボール遊び”にとって代わり、“鬼ごっ

こ”や遊具による遊びが展開される実態も見出された。これに対して、オープンスペースが全体の7割を占める「不入斗パーク公園」は、上述の通り、ボール遊び中心の現状であるが、実際には“ボール遊び”が禁止となっているという、当公園の空間構成と児童の遊び方において矛盾をはらむ問題点も浮き彫りになった。これらのことから、住商混在地域である当地区では、遊び場が公園という限定された空間であることより、児童の遊びに対する欲求に応じた適切な公園整備が強く求められよう。

参考文献

※国土交通省都市・地域整備局景観室編；魅力的な景観まちづくりのために～行政が取り組む景観まちづくり教育の手引き～、2008年3月

謝辞

本研究の成果の一部は（一財）都市文化振興財団の景観まちづくり学習助成事業によるものである。

順位	1. 場所の名称	2. よく遊ぶ場所として指摘した班(距離)	3. よく遊ぶ理由と班の合計数(複数回答)	4. 公園の面積 ①総面積 ②オープンスペースの面積 ③②/①(オープンスペース率)	5. 平面図(セームスケール)	
						班の合計数
1位	入新井公園 	1班(250m) 2班(30m) 4班(290m) 5班(560m) 7班(760m) 8班(240m) 9班(710m)	7班 ・鬼ごっこをする(4班) ・ボール遊びをする(3班) ・広くて遊びやすい(2班) ・友達と遊べて楽しい(1班)	①2,575㎡ ②2,112㎡ ③82%		
	大森北児童館 	1班(510m) 2班(430m) 4班(370m) 5班(430m) 7班(540m) 8班(550m) 9班(370m)	7班 ・ボール遊びをする(4班) ・漫画がある(3班) ・雨で遊べる(2班) ・近くに人がいる(1班) ・他の学校の人と遊べる(1班)	① - ② - ③ -		
3位	入三西公園 	1班(600m) 7班(40m) 8班(930m) 9班(320m)	4班 ・木が多く日影が多い(2班) ・鬼ごっこをする(1班) ・遊具が新しい(1班)	①1,090㎡ ②676㎡ ③62%		
	自宅 	2班(-) 5班(-) 8班(-) 9班(-)	4班 ・遊ぶ(ゲーム等)(4班) ・のんびりできる(3班) ・読書をする(2班) ・家の中が涼しい(2班) ・ボール遊びをする(1班) ・勉強をする(1班)	① - ② - ③ -		
5位	不入斗パーク公園 	2班(510m) 5班(190m) 7班(280m)	3班 ・ボール遊びをする(3班)	①1,188㎡ ②796㎡ ③67%		
	清花公園 	1班(510m) 4班(10m) 7班(850m)	3班 ・ボール遊びをする(1班) ・安全に遊べる(1班) ・縄のタワーがある(1班)	①2,219㎡ ②1,132㎡ ③51%		
	大森北公園 	1班(680m) 4班(240m) 5班(930m)	3班 ・遊具が多い(1班) ・タイヤがたくさんある(1班) ・アリジゴク(ウスバカゲロウ)がいる(1班)	① 1,481㎡ ②711㎡ ③48%		

【注】 ()内の距離は各班の居住エリアの中心から各場所までの直線距離を意味する

図2 「よく遊ぶ場所」の上位5位(全7カ所)と評価された公園の面積および平面図